



札幌ボデー工業(株)
(札幌市西区発寒)

北の大地でトラックボデーを造り続ける 全国に知られる老舗ボデーメーカー 優れた技術力で オーダーメイドの特種車を製作 新分野へ 積極的に取り組む企業姿勢

創業 67 年目を迎えた 北のテクノロジー発信基地

本誌がまだ「特装車とトレーラ」時代に北海道と東北地区を担当していた。その関係で今回訪問する札幌ボデー工業(株)には何度も訪ねている。40 年近く前、記者になりたての若造時代に同社を取材訪問してそのボデー製造レベルの高さに驚いたことがある。特に、FRP を利用した成形技術のすばらしさは今でも忘れている。

同社のホームページには「お客様とともに 60 年」とあるが、創業は昭和 24 年(1949 年)なのですでに創業 67 年目を迎えている。つまり、70 年近い歴史を持つボデーメーカーの老舗の 1 社である。

会社の大きな沿革としては、▽昭和 24 年 6 月・札幌ボデー工業株式会社創立、▽昭和 34 年 7 月・北海道菱和自動車販売株式会社と合併、▽昭和 41 年 10 月・北海道三菱自動車販売株式会社に商号変更、▽昭和 52 年 10 月・現在の札幌市西区発寒鉄工団地内に移転、▽昭和 54 年 4 月・北海道三菱自動車販売株式会社より札幌ボデー工業株式会社として独立、▽平成 4 年 11 月・4WD 高規格救急車「トライハート」完成、▽平成 6 年 12 月・本社社屋および新工場新築、▽平成 15 年 11 月・車両運行管理システム発売開始、という流れになる。

「北のテクノロジー発信基地」というタイトルが付いた同社ホームページには、製品案内も含め、いろいろな情報が詰め込まれている。その中の会社紹介の一部を抜粋して紹介しておく。

◇ ◇ ◇ ◇

《北のテクノロジー発信基地》

札幌ボデーは昭和 24 年の創業以来、車体メーカーとしてボデーの製作に一貫して取り組んできました。また、FRP を北海道で始めて



よく技術屋に間違いられますが大学は経済学部なんです、と堀田社長

トラックボデーに取り入れ、鉄鋼板金加工技術と FRP 成形加工技術を融合させるなど、多様化するニーズに応えるため新製品・技術開発に力を入れ、明日の物流システムに貢献するニュータイプのトラックを開発・提供し続けてきました。使う人の立場にたって真剣に考え、細部にまで行き届いた心遣いで製作し、徹底した品質管理の下に信頼される製品とサービスを提供していきます。

《街角の人気者…

愛されるトラック作りを目指して》

ユーザーの方々のあらゆるニーズに対応して、運搬する品物に最適なバンボデーを製作しています。札幌ボデーではアルミ製バンをはじめサンドイッチ工法による FRP 製バンなど、全て独自に開発した技術を駆使して、軽自動車から大型車まで様々なバリエーションのドライバン・保冷車・冷蔵冷凍車をお届けしています。

《オーダーメイドの個性派たち…

あらゆるニーズに応える技術力》

運搬する品物により、1 ユーザーに 1 仕様の

オーダーメイドを基本とした特殊用途車を数多く製作しています。札幌ボデーでは、車両に精通した技術スタッフが、ユーザーそれぞれの使いやすさを徹底的に追求しています。

《美しく滑らかに…

アイデアをカタチにする FRP 技術》

北海道で最初に自動車ボデーに FRP を取り入れた技術をもとに、ユニットバスや SF タンク等、高品質の製品を提供しています。札幌ボデーでは、自動車・ユニットバスで培われた技術をもとに、美しい曲面を要求するあらゆる商品の可能性を追求しています。

《可能性の追求…

新分野への積極的なチャレンジ》

車両製造技術は、鉄鋼・アルミ・FRP・木材・繊維など、あらゆる素材を使用し広範囲な技術が要求されます。札幌ボデーでは、これらの蓄積されたノウハウを活用し、21 世紀に飛躍を目指す北海道の地場産業として、積極的に新事業分野に取り組んでいきます。

◇ ◇ ◇ ◇

札幌駅から函館本線普通列車に乗り、発寒駅で下車。駅から徒歩 10 分ほどの場所に同社の本社工場はある。同社では堀田彰社長が待っていてくれた。

輸入トラックの車体架装とジープの輸入販売
ロコミで全国展開する一品料理の特種車

■於久田 札幌ボデーにはこれまでに何度となくお邪魔していますが、歴史あるボデーメーカーの 1 社ですよ。

◇堀田 当社の創立は昭和 24 年ですから、確かに 70 年近い歴史を持っています。創業当時は海外からの輸入トラックをベースに車体架装を行い、ボデー架装をメインに続けております。トラックがまだ少ない時代に馬車などの製造をしていたボデーメーカーは全国に沢山ありましたから、当社だけ歴史が長いとは言えません。

■於久田 日本でジープを扱ったのは札幌ボデーが最初だったと思いますが。

◇堀田 創業したころは、別会社を設立してアメリカからジープを輸入し販売しておりました。昭和

34 年にその会社と一度合併しましたが、その会社は北海道三菱自動車販売となり、その後、昭和 54 年に札幌ボデー工業として独立、現在に至っております。

約 10 年単位でいろいろな動きがあり、兄弟会社が合併したり独立したりとその部分は少し複雑です。

■於久田 FRP ボデーを扱いはじめたのもかなり早かったと思いますが。

◇堀田 一体成型の FRP ボデーを本格的に扱い始めたのが昭和 54 年頃からです。ボデー業界の中では早かった方だと思います。

■於久田 初めて札幌ボデーを訪問したのは、この場所に工場を移転(昭和 52 年)された直後だったと記憶していますが、その当時にすでに FRP を扱っておられましたよね。

◇堀田 そうです、その頃から扱っておりました。一体成型の FRP ボデーの本格販売を開始したのが昭和 54 年以降となります。昭和 54 年に札幌ボデー工業として分離独立したタイミングですね。その後少し経ってから、サンドイッチパネルの冷凍車を開発し発売しました。パネルから組み上げて FRP 冷凍車を新車から製作するメーカーは少ないでしょうね。勿論、大手のボデーメーカーさんは生産されていますが、私どものような規模では他にないと思います。

■於久田 札幌ボデーと言えば、ユーザーからのニーズによ

り一品料理的に組み上げる特種車で全国的に知られていますが。

◇堀田 特種系は全国レベルで扱っています。数台まとまった受注もありますが、基本、特種はすべて受注生産です。その殆どは 1 台だけとなります。

当社では、元々設計や開発などを行っていた技術者が営業に行ったり、お客様の所に営



札幌ボデーのメイン商品のひとつとなる高規格救急車「トライハート」。災害地での燃料の調達比較的容易なディーゼルエンジンを搭載し、走破性に優れる 4WD 2 トラックをベースに振動を最小限に抑えるエアサスを後輪に採用。充分な機材を搭載しながら全長はワゴン車クラスとなっている。ボデーは札幌ボデーが得意とする FRP 特殊パネルが使用されている



情報満載の札幌ボデーのホームページ(<http://www.sapporo-body.co.jp/>)



人体の放射能を測定する装置を搭載した「ホールボディカウンター車」



飲料配送を行う「ボトルカー」。全国的にこの種のボデーを扱っている車体メーカーは少ない



このところその扱いが増加している移動販売車。札幌ボデーは2t車以上の移動販売車の架装にも対応している

業と技術担当が一緒に行ったりして、ユーザーからの要望を理解し把握する体制をとっています。

特種は設計だけでもかなり時間がかかります。長い場合は3か月以上かかることもあります。最初の訪問時に技術担当がいれば、少しでも時間の短縮ができますから。

■於久田 全国展開ということですが、各地に

営業所のようなものを置いているんですか？

◇堀 田 北海道は勿論、東北、関東、関西、四国、九州、そして沖縄まで全国どこでも扱いますが、特に支店とか営業所は置いていません。話があれは、例えば沖縄であってもこちらからお客様の所に訪問して話を聞き、仕様をまとめます。すべて出張ベースでの対応でやっております。

当社から新規のお客様へ積極的に営業を行うことは少なく、口コミとホームページを見て問い合わせを頂く場合もあります。全国各地にいろいろなクルマを納めていますから、そういうお客さんから同じ車ではないが、こういう車をつかってほしいという、リピーターからの商談も頂きます。

その他、全国のディーラーさんからも話を頂きます。その代表が救急車で、その関連でレントゲン車などの医療検診車、サンドイッチパネルを採用した移動事務室車などもあります。最近は病院関係の車両が多くなっております。

当社の特色としては、特種系の車両なら軽自動車から大型トラックまで大体のものを生産していま

す。トレーラベースはありませんが…。

■於久田 でも、トレーラをベースにした特種車もいろいろありますが…。

◇堀 田 当社にはトレーラを引っ張るヘッドがないもので…。(笑)正直、工場も北海道三菱自動車販売からの独立ということもあって乗用車と小型トラックをベースとした工場の作りになっています。そのまま今日まで来ていますか

ら工場も狭く大型車がギリギリ入るスペースしかありません。

注目の FRP サンドイッチパネル冷凍車 伸びる2トン車以上の移動販売車

■於久田 扱い車種の割合的にはバンと特種ではどのようになりますか？

◇堀 田 当社は元々が特種からのスタートでしたから、フォード車に消防関連のボデーを架装した消防車とか、変わったものが多くありました。言ってみればそれしかなかったわけです。

現在では、量的に多いのは FRP サンドイッチパネルの冷凍車と保冷車になります。売上的には、例年、特種車とサンドイッチパネルが半々ぐらいです。今年はサンドイッチパネルの売り上げが若干多い状況ですので、6対4ほどになると思います。

特種では最近移動販売車がなくなってあります。北海道は広く、過疎になってスーパーが少なくなっている地域もあって、そういうエ

リアに移動販売車が向かいます。買い物難民などと呼ばれる人たちがいる場所で使用される移動販売車が増えてあります。それと、札幌市内の団地でも高齢化が進んでおり、近くにスーパーがあってもお年寄りなかなか行かない。そういう場所でも移動販売車は活躍しております。

そのような状況もあり、最近は移動販売車が多くなってあります。当社は軽タイプも扱いますが、基本的には小型トラックベースのもので、2トンクラスかそれ以上の車両の移動販売

車を数多く製作しています。軽自動車ベースの移動販売車を扱っているメーカーは全国に結構ありますが、2トン車以上のクラスの移動販売車は他ではあまり製作しておりませんので、北海道だけでなく本州からも多くの引き合いを頂いております。

■於久田 特殊なものとしてはロープウェイのゴンドラを FRP で成形していたと記憶していますが。

◇堀 田 今でもゴンドラのリメイクはやってあります。最近多いのはスキーのリフトのカバーです。高速で移動しますから、風よけのためのアクリルのカバーをリフトの座席前に付けますが、そういう仕事も委託を受け生産しております。台数的にリフトカバーは多いですね。



美しく、清潔な「FRP 一体成形バン」。継ぎ目やリベットがないので広告スペースとしても利用価値が高い。錆びない、腐らない、抜群の耐久性で、優れた経済性を発揮する



委託生産しているアクリル製のリフト用「ビスタカバー」。需要が伸びているという

その他、リフトの機械室小屋とかチケット売り場だとか、そういうものも製作しています。クルマ以外では携帯電話の中継基地局などもあります。

■於久田 工場としてはここだけなんですか？

◇堀 田 工場はこことこの近くにもう一つあります。工場としてはこの2カ所です。広さは同じぐらいです。従業員は、社員が68名で、パートと派遣社員が約20名です。

■於久田 創業者は堀田社長のお父様になられるんですね。

◇堀 田 そうです。創業者は父で、当社の先代です。創業時代は国産のトラックはあまりなく、その殆どは輸入車で、それにボデーを架装をする仕事をしていました。輸入車も限られ、民間で使う車は輸入禁止で、官公庁などで使う車だけでした。消防車とかそういう公共関係の車を中心に製作してしていました。

ジープもアメリカから輸入していましたが、(戦争映画に出てくるフロントウィンドウが前に倒れる幌タイプのジープ)それを輸入販売してしていました。これらも林野庁、開発局などの官公庁への納入用です。ジープの後ろに農業用のプラウを付けてジープをトラクターの代わりに利用して、広大な畑を耕すわけです。耕運機などというものがまだない時代ですから、ジープを応用してしていました。北海道三菱の前身の会社がジープを輸入・販売して、札幌ボデーが後ろのプラウを担当して土を耕すジープ耕運機を作っていました。私が生まれて間もないころの話です。

札幌ボデーは昭和24年に設立されましたが、それより前の昭和20年、戦後すぐに堀田自動車整備という会社を先代がはじめて、米軍などが持ち込んだ自動車の整備などをしていました。その会社がジープを輸入して販売していましたが、その後、ジープは三菱重工で生産する事になって、直接輸入ではなく、三菱重工

から仕入れて、それにいろいろと饘装して販売していました。その縁で三菱自動車の北海道のディーラーになったわけです。

■於久田 先代には私もお目にかかってますが、前人未達の新しいことを常に考え、それを実践してこられた偉人だと思います。会社を継がれたのはいつなんでしょうか？

◇堀 田 会社を継いだのは31年前ですから、昭和60年、1985年です。かれこれ30年以上になります。

私の子供のころはボデー工場の敷地内に自宅がありましたから、回りには車が常にあり、ボデーを作っているのをよく見ていました。

■於久田 社長のお生まれは何年ですか？

◇堀 田 生まれは昭和22年です。高校まで北海道で、大学は東京の青山学院大学です。よく技術屋だと思われそうですが、実は経済学部卒で理工系ではありません。

■於久田 タイ国際トラックショーを開催した時にタイに進出したばかりのジャパンボデー(JBM)の技術指導をしている息子さんにバンコクでお会いしましたが…。

◇堀 田 彼は次男です。その節はお世話になりました。長男は日野自動車に勤めています。子供は3人おりますが、末っ子は娘です。

■於久田 北海道ですからスキーはベテランとか。

◇堀 田 北海道出身なのにスキーもスケートもまったくやりません。(笑)趣味としたらゴルフぐらいです。

■於久田 タイではJBMさんに冷凍車を出展してもらいましたが、来場者から注目されてました。

◇堀 田 タイにはサンドイッチパネルのボデーをつくっているボデーメーカーはあまりないものですから、それでJBMに技術協力する形でサンドイッチパネルの冷凍車でお手伝いすることになりました。



昨年9月にバンコクで開催した2015タイ国際トラックショーに出展したジャパンボデー(JBM)のブース。札幌ボデーがJBMに技術協力を行う形でサンドイッチパネルの保冷ボデーをタイで製造している

■於久田 タイを中心としたアセアン各国は物流、特に陸上輸送のトラックの高度化に取り組み始めてます。中でもコールドチェーンは重要な部分です。ブリキのボデーに氷を入れて、その上に肉や魚などの食材を載せて運んでいるゾツとするようなケースを目にすることがありますからね。特種系はまだ先でいいかもしれませんが、定温輸送は早急実現させる必要があると思っています。

◇堀 田 今回のタイでのトラックショーにはJBMから2トンと4トンの冷凍車を出展させて頂きました。これからは小型車のピックアップ用の保冷ボデーが必要だと感じており、ピックアップの冷凍車と冷凍機の付いてない保冷タイプの2種類の販売を開始いたしました。大きい冷凍車はまだこれからのようですが、ピックアップタイプの需要はあるようです。冷凍機が付いてない保冷タイプでは相変わらず氷を入れていますが、完全な断熱ボデーですから、輸

送の品質は大幅にアップします。従来のものとは全然違います。

■於久田 次回のタイ国際トラックショーは来年(2017年)3月に開催しますので、その時にはぜひともピックアップ冷凍車を出展していただきたいと思います。本日はお忙しいところありがとうございました。

■訪問企業データ

会社名：札幌ボデー工業株式会社

本社所在地：〒063-0835

札幌市西区発寒15条13丁目4番60号

TEL:011-662-2511/FAX:011-662-4342

URL: http://www.sapporo-body.co.jp/

営業品目：【自動車車体部門】FRPバン、セミ・ウォークスルーバン、アルミバン、ポトルカー、移動販売車、4WD高規格救急自動車「トライハート」、災害支援車、放送中継車、サポートカー、その他【FRP関連部門】各種タンク等住設関連FRP製品、車両用エアロパーツ等FRP製品

【車両運行管理システム】GPS装置及び管理ソフトウェア

【北のテクノロジー発信基地】
札幌ボデー 製品写真グラフ



耐久性と断熱性に優れる「FRP サンドイッチバン」(25トン大型冷凍車)



大型アルミバン冷凍車



テールゲート付きの「ウイングバン」



軽四 FRP 保冷車



高速道路で活躍する「道路維持作業車」



跳ね上げ式の窓の付いた「厨房車」



引っ越し用に利用される「軽四 FRP ドライバン」



水難向けの「救難機動車」



災害救助活動に必要な装備を搭載した「災害救助活動支援車」



2300 冊収納可能な「移動図書館車」



工具類の取り出しを容易にした「移動工作車」



軽四タイプの「調理移動販売車」



業務用食器洗浄器を搭載した「アラエール号」



荷台内部を店舗スペースとして活用するタイプの移動販売車



乗車定員 9 名の「トリプルキャブ」



乳がんの早期発見に貢献する「マンモグラフィ検診車」



胸部と胃部の検診を行う「レントゲン車」



FRP 一体成形ボデーの「エアロ移動販売車」



キッチンとバスが体験できる「商品展示車」



機動性が高いワゴン車ベースの「小児救急車」



工事現場の悩みを解決するパイオトイレ搭載の「セーフレットII」



家畜などの検査・診療用に開発された「大型セミウォークスルーバン」



田沢湖スイス村の FRP 製「リフトカー」